

旧ユーゴスラビアの歴史を巡る旅

——求められる日本の役割



駐クロアチア日本国特命全権大使
井出敬二

はユーゴスラビアをまとめ、東西両陣営の間で第3勢力として国際的な存在感を示した。他方国内では独裁者であり、人権侵害を行い経済運営も失敗したと批判される。

3. 1991年以降の旧ユーゴスラビア各地での戦争(旧ユーゴスラビア紛争^{※注})をどう評価し総括するか。この間の戦闘で10万人以上が死傷したと言われる。95年8月の「嵐作戦」でクロアチア・セルビア両武装勢力間の戦闘が、また同年11月の Dayton 合意でボスニア・ヘルツェゴビナ紛争は終結した。しかし20周年にあたる昨年も、その評価をめぐり様々な外交的なやりとりがなされた。

今なお残る3つの歴史的な問題

日本のある旅行者の方に教えてもらったのだが、戦争などの歴史に焦点を当てたツアーは、日本人にも一定の人気があるようだ。旧ユーゴスラビア地域で筆者が実際に訪れた場所で、関心を持っていただけそうな場所を紹介したい。交通の便は多少悪いが、安全面に必要な注意をしていた上で訪問が可能なところである。

クロアチアでは次の3つの歴史が今でも論争を呼んでいる。

1. 第2次世界大戦中のクロアチアのファシスト体制をどう評価し、清算したかという問題。同大戦中に旧ユーゴスラビア全体で約150万人が犠牲になったと言われ、その内の数十万人(論者により数字に隔たりがある)ものセルビア人が当時のウスタシャと呼ばれるクロアチア政権により殺害されたと言われる。
2. 共産主義時代をどう総括し、チトー(元大統領。27年間在位)をどう評価するか。チトー

※注：旧ユーゴスラビア紛争

ユーゴスラビアを統一したチトー大統領の死後、東欧民主化の動きに合わせ構成各国の独立機運が高まった。1991年から2000年頃にかけて各地で激しい分離独立の戦争が相次ぎ、91年のスロベニアを皮切りに、クロアチア、マケドニア、ボスニア・ヘルツェゴビナなどが次々と独立した。旧ユーゴスラビアはモンテネグロ、コソボ、セルビアを含む現在の7カ国体制に解体した。

統一者チトー評価を2分するもの

1. ヤセノバツ強制収容所(クロアチア)

第2次世界大戦中クロアチアのウスタシャ政権は、ナチス・ドイツの同盟者であり、同様の大量殺人者であった。首都ザグレブ市から東南へ約120kmの場所に強制収容所の跡と記念館がある。ここで41～45年、少なくとも8万3145人(名前が判明している者のみ、セルビア人、ユダヤ人、クロアチア人、ロマ人らが含まれていた)が惨殺された。